

群 教 七	E03-03
	平 14.206 集

# 学級の問題に気づき、みんなで解決すること に喜びを見いだす学級活動

— 『ハッピー15記念日』作りの活動を通して —

特別研修員 小林 友子

## 《研究の概要》

本研究は、クラスの記念日『ハッピー15記念日』作りを通して、学級の問題に気づき、みんなで解決することに喜びを見いだす児童の育成を目指した実践的研究である。具体的な活動としては、学級の問題を共通理解するための話し合い、記念日（問題を解決できた日）の実現に向けて互いに認め合い励まし合いながらの実践、問題解決の過程や結果に喜びを感じ、新たな意欲につなげるための振り返りの話し合い活動を行った。

【キーワード：特別活動 小学校 学級活動 話し合い 問題解決 記念日】

## 主題設定の理由

近来子どもたちは、社会性の未発達や人間関係の希薄さなどから、主体的に他と協力して問題を解決していくことが苦手であり、問題解決に向けて協力して取り組み、みんなで解決できた喜びを味わうことの経験が不足しているといえる。問題についての共通理解をもとに活動の目標を作り、協力して実践し解決していく望ましい集団活動を通して、自主的、実践的に問題に取り組もうとする態度を育てていくことが求められている。

本学級の児童（5年生 15名）は、幼稚園のときから同じ集団で過ごしている。納得したことは意欲的に活動しようとするが、現状に満足してしまう傾向も見られ、進んで問題点に目を向けみんなで解決しようとする意欲は不十分である。このような子どもたちには、学級生活の諸問題に気づき、力を合わせて解決していく自主的、実践的な態度を育てることが大切である。そのためには、解決できた満足感や達成感を得て、みんなで解決することに喜びを味わえることが必要であり、その喜びが内発的な活動意欲の高まりになると考える。学級生活の諸問題の解決には、学級の問題に気づき、話し合い活動を通して児童が思いや願いを出し合う中で、学級の生活をよりよくしたいという願いを個人的なものから全体のものへと広げ、高めていく必要がある。

そこで本研究では、問題に気づき、みんなで解決できた満足感や達成感を味わえる活動として『ハッピー15記念日』作りを計画・実践することにした。学級の記念日を実現するためには、学級の問題を共通理解し、解決していくための方法を考え、一人一人が役割と責任を自覚し、問題解決に向けて協力し合って実践をしていかなければならない。問題解決ができたとき、記念日を作れた喜びを共有し合え、次の記念日を作るうとする新たな意欲の喚起につながると考える。また、記念日作りの活動を進める上で、議題の選定、計画委員会、話し合い、実践、振り返り、といった一連の活動を展開し、活動を重ねるごとに話し合いや実践活動が一層練り上げられて、スパイラル的に集団としての向上が期待できると考える。

この『ハッピー15記念日』作りの活動を通して、学級の問題に気づき、みんなで解決することに喜びを見いだす児童が育成できると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

学級の問題を解決できたときを学級の記念日とする『ハッピー15記念日』作りの活動を通して、学級の問題に気付き、みんなで解決することに喜びを見いだす児童の育成が図れることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

次の1～3を行うことにより、学級の問題に気付き、みんなで解決することに喜びを見いだす児童が育つであろう。

- 1 アンケート調査やランキング法を実施して学級の問題を取り上げるとともに、「話し合いの進め方」をもとに話し合い活動を行い、自己評価カードを使って振り返りをすれば、学級の問題に気付き、学級生活をよくしようという自分の思いや願いをもてる児童が育つであろう。
- 2 問題解決に向けて実践し、友だちからのアドバイス(15のヒント)を活用し、アドバイスを生かしたことや友だちからのうれしい言葉かけを記入した「ありがとうカード」や「日記」を使い、互いを認めたり励ましたりしていけば、問題解決に向けて友だちと協力して取り組む児童が育つであろう。
- 3 活動振り返りカードを用いて自己評価や相互評価をすることによって、これまでの活動を振り返り、互いの協力を認め合い、記念日のできた成果を確認し合ってから記念日年表を作成していけば、みんなで協力して取り組めたことに喜びを感じる児童が育つであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え方

(1) 「学級の問題に気付く」とは

一人一人が他者との関わりの中で、よりよい学級集団を目指して果たすべきことや努力の不足している点を学級の問題としてとらえられることである。気付いたことをもとに問題解決に向けて話し合い、実践をしていくことでさらに問題に気付き、今まで学級の問題に気付かなかった児童も気付くようになっていくなど、気付きが広がっていく。

(2) 「みんなで解決することに喜びを見いだす」とは

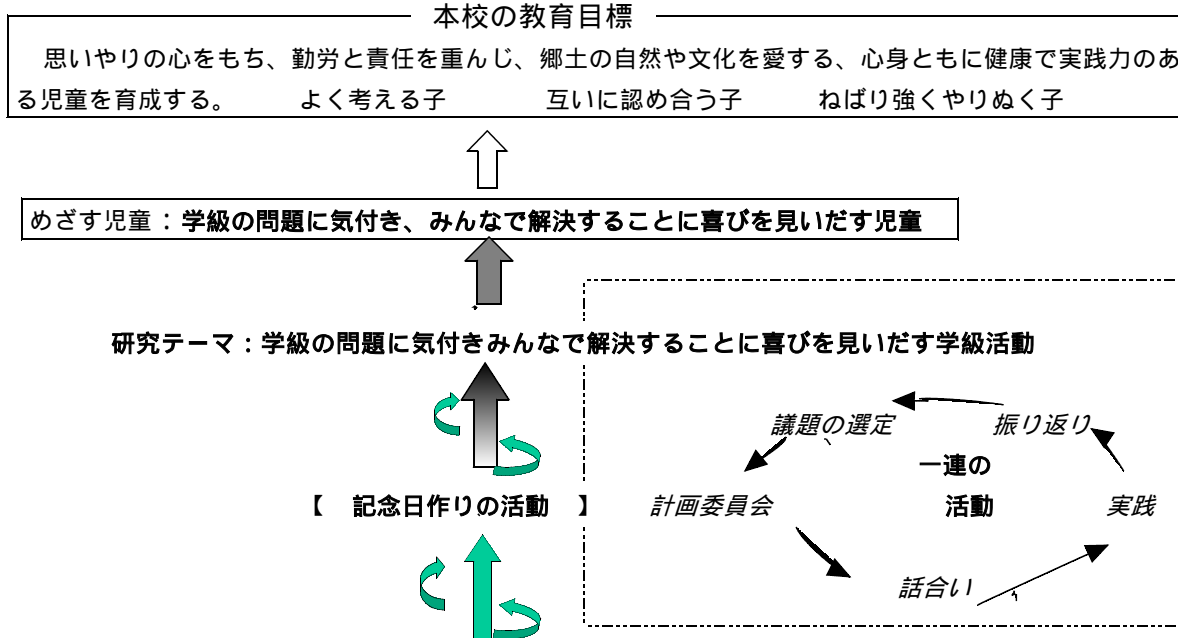
問題解決に向けた活動の中で、自分が努力して解決できた喜びを感じられるとともに、他者の活動の努力を認め、一緒に努力できた喜びを感じられることである。一人ではできなかったことも、みんなで解決しようとするならできることもあり、集団のよさを生かした取組によってみんなで喜びを感じることができる。その喜びは、次の問題解決に向けて活動の意欲になっていく。

(3) 「ハッピー15記念日作りの活動」とは

「ハッピー15記念日」は、児童の中から出てきた言葉であり、記念日を作っていくことで、みんながハッピーな気持ちになるようにという思いが込められている。みんなを意識して学級構成人数の15にこだわり、活動を進めるときのキーワードとした。学級の問題に気付き、協力しながら問題解決を図り、解決できたときを「記念日」とする。記念日作りの活動は、みんなで楽しみながら問題解決することが可能となり、主体的な活動を行い、学級集団の向上を目

指して実態の改善が行えると考えた。年間を通して記念日作りを学級のスローガンとして掲げ、問題解決に向け一連の活動を行っていく中で、スパイラル的に活動の意欲や達成感が高まるとともに、集団が向上していくと考える。

(4) 全体構想図



	見通し(1)	見通し(2)	見通し(3)
目指す児童像	学級の問題に気付き、学級生活をよくしようという自分の思いや願いをもてる児童	学級の問題解決に向けて友だちと協力して取り組む児童	みんなで協力して取り組めたことに喜びを感じる児童
手立て	学級活動 ・アンケート調査やランキング法 ・「話し合いの進め方」 ・自己評価カード(採点表)	実践 ・ありがとうカード ・日記 ・15のヒント	学級活動、朝の会・帰りの会 ・活動振り返りカード ・記念日年表

2 実践の概要及び結果と考察

(1) 活動計画

	活動の場	活動内容	検証の観点	検証の方法
1学期	4月 学級活動	・学級目標作りに向けて、意識調査 ・話し合い・・・「学級目標」	・学級の問題点に気付いているか。 ・よいクラスを目指し、目標に向けて取り組んでいく意欲をもてたか。	・アンケート調査 ・採点表
	5月 学級活動 国語・休み時間	・話し合い・・・「よいクラスにしよう」 ・「話し合いの進め方」作成	・もっとよいクラスにするために、必要なことに気付けたか。 ・「話し合いのやり方」を確認できたか。	・ランキング法 ・採点表 ・発表の様子
	朝の会 帰りの会	・「記念日」を作っていく。	・学級の問題に気付き、問題解決に向けて取り組んでいく意欲をもてたか。	・振り返りカード ・作文や日記
	朝の会 帰りの会 常時活動	・記念日作りのめあてとやり方の確認 ・ニックネーム記念日〔生活〕・東京旅行記念日〔行事〕・チャレンジ記	・めあてをもてたか。 ・めあてが達成できたか。 ・みんなで協力して取り組めたか。	・活動の様子 ・振り返りカード ・日記

	授業時間	念日〔学習・行事〕・かけ算九九合格記念日〔学習〕	・記念日達成の喜びを感じられたか。	・話し合い
	8・9月 朝の会 帰りの会 常時活動	記念日作り ・運動会記念日〔行事〕 ・ランニッシュ(マラソン)記念日〔行事〕 ・音楽祭記念日〔行事〕 ・収穫記念日〔学習〕	・5年生らしいめあてをもてたか。 ・協力して実践できたか。	・話し合いの様子 ・振り返りカード ・作文
事前	10月	・記念日作りに向けて意識調査	(計画委員の活動を進んでできたか)	・アンケート調査や
見通し1	朝の会 帰りの会 学級活動	・話し合い・・・「もっと記念日を増やそう」	・学級の問題に気付けたか。 ・話し合いで、自分の思いや願いを伝えられたか。	・ランキング法 ・話し合いの様子 ・自己評価カード
見通し2	常時活動	記念日に向けて実践活動 ・忘れ物0ギネス記念日〔生活〕 ・完字喜年日(漢字)〔学習〕 ・わり算合格記念日〔学習〕	・友だちと協力して取り組めたか。	・ありがとうカード ・15のヒント集 ・日記
見通し3	11月 学級活動	・話し合い・・・「記念日作りの取組を振り返ろう」	・協力して問題解決に取り組み、解決できた喜びを感じられたか。	・振り返りカード ・記念日年表
	12月 学級活動	・話し合い・・・「5年生の集会をしよう」 ・集会「15のお楽しみ会」	・集会のめあてを確認でき、自分たちの集会を計画できたか。 ・集会のめあてに向かい、みんなで協力して集会ができたか。	・採点表 ・発表の様子 ・活動の様子 ・振り返りカード

(2) 学級の問題に気づき、学級生活をよくしようという自分の思いや願いをもつことができたか。(見通し1)

#### ア 実践の概要

5月下旬に「よいクラスにしよう」を議題に問題解決に向けた話し合いを行い、それをきっかけとして記念日作りがスタートした。10月には、「クラスがもっとよくなるには、もっといろいろな記念日が作ればいい。」という

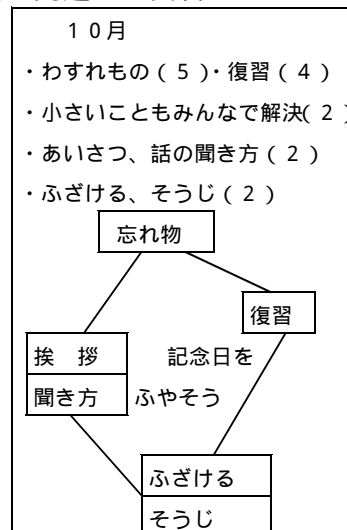
児童からの提案を受け、計画委員会が学級の問題についてアンケート調査やランキング法を行い、それをもとに記念日作りの話し合いを行った。国語の授業で作成した「話し合いの進め方」を活用して話し合いを進行し、問題解決のための実践に向けて計画を立てた。話し合い終了時には、自己評価カード(採点表)を記入して話し合いを振り返った。

#### イ 結果と考察

学級の問題について計画委員がアンケート調査やランキング法を行ったものが資料1である。1学期の学級の問題は(資料1 - ) “遊びの中でいじけたり、時々けんかがあるからやめてほしい。”という他者への気づきが主であった。何度か記念日作りを経験した10月には(資

資料1 - 学級の問題 資料1 -

5月  
・けんかをする人がいる。(6)  
・いじける。(4)  
・遊ばない(1)  
・手悪さ(1)  
・話の聞き方(1)  
なし(2)



料1 - ) 全ての児童が学級の問題に気付くようになり、自分の生活を見直すような気付きに変わってきている。学級の問題に気付くために計画委員がアンケート調査を行い、その結果をランキング法を用い課題を明確にしてから話し合いを進めた。このことによって、活発な話し合い活動が展開された。自己評価カードの感想の欄には「わかりやすく楽しかった。意見が出しやすかった。」などが書かれた。うまく意見が言えなかった児童が「～さんみたいに言いたかった。」「記念日ができるように頑張る。」「～さんの意見はすごい。大賛成。」などと書き、伝えられなかった思いが読みとれ、それぞれの児童が思いや願いをもっていることがわかった。話し合いの中では伝えられなかった、自己評価カードに書かれた児童の思いを教師から紹介し、その思いや願いをみんなで認め合った。計画委員の構成を工夫し、自分たちの考えを取り入れた「話し合いの進め方」を活用することにより、話し合いの場面でも教師を頼ることが減った。また、話し合いが好きになった児童が増えた(4名 9名)。その理由は「意見が出せるようになり、話し合いがうまく進められるようになった。みんなが納得するのでいい。みんなですることが増えていくと嬉しい。」などが挙げられた。自分たちの気付きが生かされたことにより、話し合いのよさを感じ、話し合いの中で思いや願いが深まることがわかる。

話し合い活動に消極的だった抽出児Aの自己評価カードを1つにまとめたものが資料2である。4つの観点を結んだ四角形が、からへと活動が進むにつれて、広がっていくことがわかる。話し合い活動に意欲的になり、自分の思いや願いをもち、その思いや願いをみんなに伝えようとしている。アンケート調査に、1学期には、「学級の問題はない」と答えていたAだが、2学期には、「忘れ物」を挙げ、生活面の問題に気付き、学級を良くしていこうという願いをもつようになった。

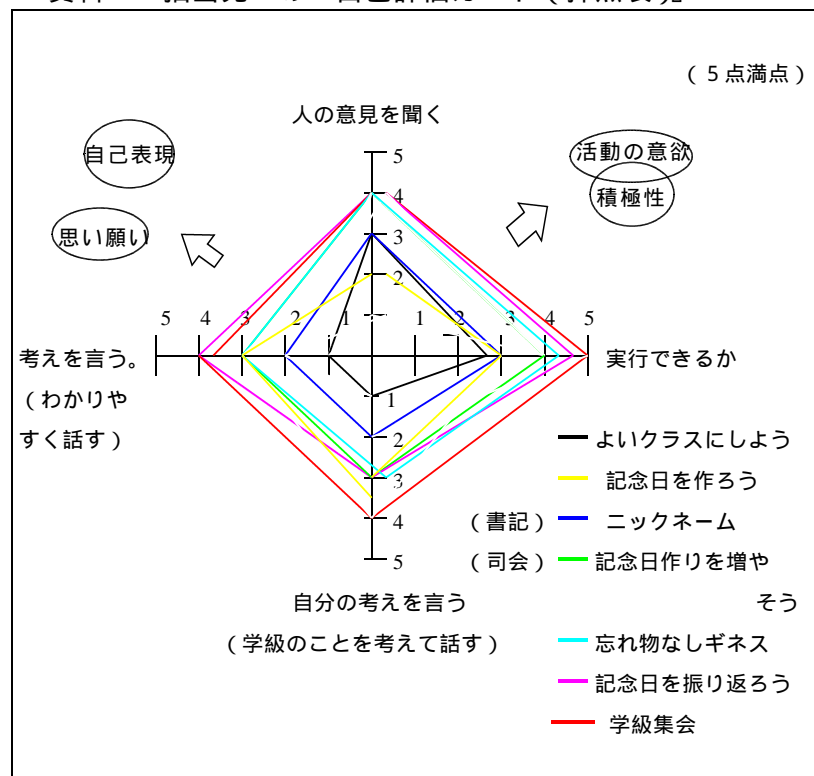
これらのことから児童は、学級の問題に気付き、学級生活を良くしようという自分の思いや願いをもつことができたといえる。

(3) 学級の問題解決に向けて友だちと協力して取り組めたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

友だちから受けた励ましやアドバイスに対して嬉しかった思いを『ありがとうカード』に書き、ありがとうポストに入れた。『日記』は、活動に対する思いや反省などを書きたいときに自由に綴った。“みんなに紹介してもよい”というマークの付いた『ありがとうカード』や『日記』を朝の会や帰りの会で紹介した。10月には、記念日作りの活動がうまく進められるように活動に対するヒントを紹介したものを『15のヒント』(資料3)として一冊にとじて、自

資料2 抽出児Aの『自己評価カード(採点表)』



由に見られるように教室に置き、活動がうまくいかないときに読んで、ヒントを選び、実践に生かすようにした。

#### イ 結果と考察

朝の会や帰りの会で『ありがとうカード』や『日記』を紹介すると拍手が起こり、友だちが頑張っていることに対して感心する言葉や励ます言葉が感想として出てきた。

『ありがとうカード』には、「同じようにやったらできた。言葉かけがうれしかった。」、「大丈夫だよと声をかけてもらったときは、ショックがものすごく減ってうれしかった。がんばるぞ。」などと書かれ、友だちからの言葉かけが取組の励みになっていたことがわかる。『日記』には、記念日作りの活動を積み重ねるにつれて、自分ができた喜びや反省だけでなく、友だちの頑張りを認めたり喜んだりする内容が増え、書かれる回数も増えてきた。「15のヒントの中で自分のヒントが使われて、ありがとうカードに書かれたときはうれしかった。友だちが頑張ってくれているんだなあと思った。」と友だちに協力できている喜びを感じている児童も多くなった。

『15のヒント』は、“忘れ物なしギネス編”“漢字合格編”“わり算合格編”“日本列島丸暗記編”を作り、取組がうまくいかないときに読み返して参考にしている。友だちに直接声をかけてもらって助けられたり、間接的に自分のアドバイスが生かされたりして、互いに協力して取り組んでいることがわかる。

抽出児Aは活動がマイペースで、繰り返し練習することを好まず、自主的な取組がうまくいかないことが少なかつた。「完字喜年日(漢字合格)」の取組を開始して間もなく、10月の日記にAは、「一発合格はつらい。でも合格しなきゃ。」と書き、その後友だちから励まされたことを『ありがとうカード』に資料4のように書いている。それから『15のヒント：漢字合格編』を見たり、さらに励まされたりして、11月から12月の日記(資料5)には、完字喜年日の取組についての思いを3回書き、頑張ろうという意欲が伺える。漢字練習を頑張り、よい結果を得られるとともに、根気よく取り組めるようになり、自分のやり方を友だちに教えて励ます姿も見られた。また日記には、他の記念日の活動に対しても、自分の反省や友だちの頑張りを認める内容が書かれるようになった。

これらのことから、記念日作りのために友だちと協力して取り組めたといえる。

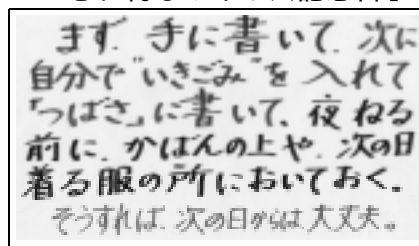
(4) みんなで協力して取り組めたことに喜びを感じられたか。(見通し3)

#### ア 実践の概要

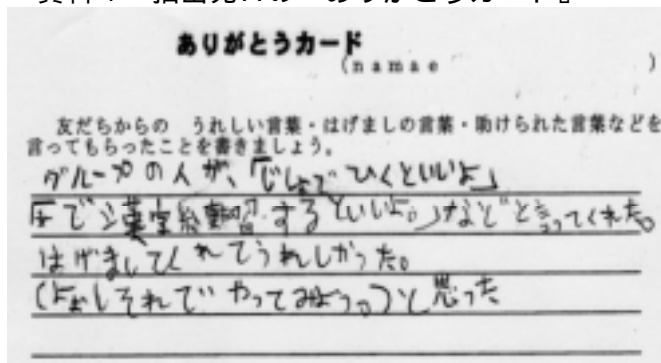
問題解決ができて記念日となったときに『活動振り返りカード』を使い、記念日についての

#### 資料3 『15のヒント』

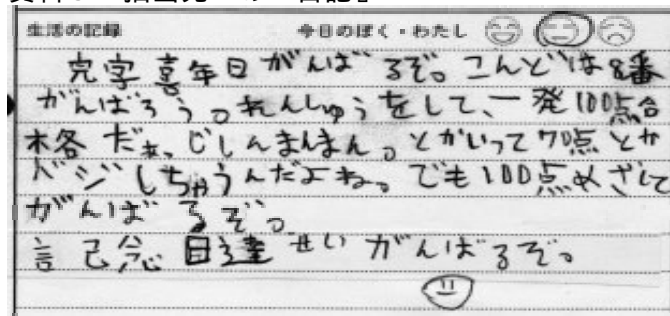
「忘れ物なしギネス記念日」



#### 資料4 抽出児Aの『ありがとうカード』



#### 資料5 抽出児Aの『日記』





振り返りを行った。互いに努力したことを発表し合い、記念日が達成できたことを確認し『記念日年表』に付け足していった。11月には、今までの記念日の活動全般についても『振り返りカード』に記入し、それをもとに話し合いを行った。これから記念日作りをどうしていくのかについても確認し合った。

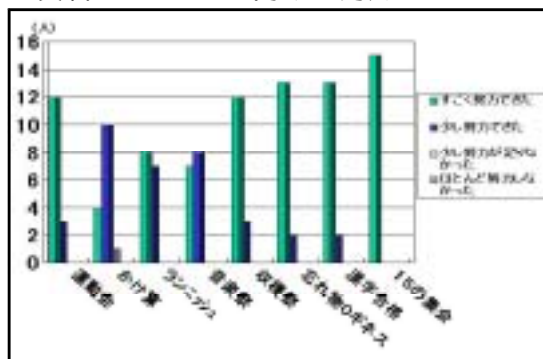
#### イ 結果と考察

『活動振り返りカード』から問題解決に向けて努力できたかどうかをまとめたものが、資料6である。10月に記念日の取組について再度話し合いを行った後の取組が、収穫祭記念日以降になる。それ以前の記念日より、個々の毎日の生活と関わりが深く、問題解決に日数がかかる記念日となったが、「すごく努力できた」が増えている。10月の話し合い以降、めあてに向けてよく努力していることがわかる。資料7は、友だちの努力に対する気づきをまとめたものである。収穫祭記念日以降は、全員が友だちの努力に気づき、互いの取組を認め合っており、互いに努力し合い協力して取り組んでいるといえる。また『活動振り返りカード』や話し合いの中で、「前より友だち関係がよくなった。」「友だちの忘れ物が減ってきてよかった。頑張っていることがわかる。」「漢字テストで100点を取れる人が増えてきたのでよかった。」などの意見が出された。達成感とともに友だちと協力し合ってきた満足感を得ていることがわかる。取り組んできた記念日作りは、行事面、学習面、生活面の3つに分けられる。行事面では、「みんなで協力できたので、よい体験や経験ができてよかった。5年生らしくできた。」学習面では、「自分から練習がたくさんできるようになり、前より努力するようになった。復習の仕方がわかり、自分のやり方がみつけてよかった。」生活面では、「忘れ物が減ってよい習慣が付いてきた。」などの成果を確認できた。また「一人では変わらなかったことが、みんなでやったので変わってよかった。」「よいプレッシャーがかかってできた。」などの意見も出され、記念日作りの活動を行った成果と喜びを確認し合うことができた。今後の記念日の取組については、「めあてに向かって頑張れて楽しくなったので、これからも続けていこう。」と確かめ合えた。さらに、「記念日を頑張ってやったお祝いと、5年生の思い出作りに、お楽しみ会をやろう。」という学級集会の提案がなされ、集会を計画・実践し、「15のお楽しみ会」記念日となった。

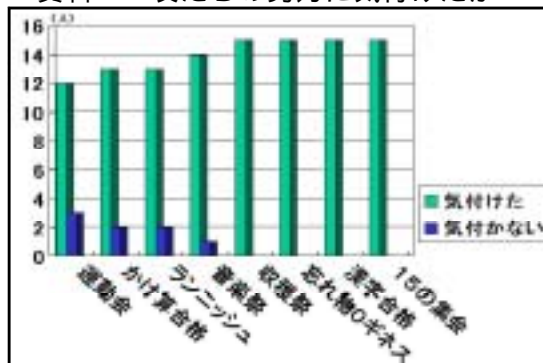
抽出児Aは、「自分は、めあてに向かって頑張れた。行事面では、みんなで協力して頑張れた。来年も今年のめあてを生かしたい。学習面では、みんなで合格できてとってもよかった。漢字で100点を取れる人が増えてきたのでよかった。生活面では、忘れ物が無いといい気持ち、みんなで頑張れた日は嬉しい。」と発表をしている。生活面や学習面の取組が自分だけではなかなか改善されなかったAであるが、みんなで問題解決する取組に進んで関われるようになり、みんなで取り組めたことに喜びを感じることができた。

児童の手作りの『記念日年表』(資料8)を教室内に掲示し、みんなでめあてを達成できたことを喜び合った。記念日年表が増えていくことで、学級をさらによくしていこうという意欲

資料6 めあてに向けて努力できたか



資料7 友だちの努力に気づけたか



の高まりとなり、記念日  
年表の掲示は、意欲を継  
続させる一つの動機に  
なっている。

以上のことから、みん  
なで協力して取り組めた  
ことに喜びを感じられた  
といえる。

資料8 『ハッピー15記念日』



## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

学級の問題について、友だちの中に問題を見付けていた子どもたちであったが、記念日作りの活動をすることによって、友だちと自分自身を見つめるようになり、学級の問題に広く気付き、全体へと目が向けられるようになってきた。

『ハッピー15記念日』作りの活動は、学級の問題に気付き、みんなで協力して解決することに満足感や達成感を得られ、一連の活動がスパイラル的に作用しながら、集団としての向上が見られた。また学級生活をさらによくしたいという思いや願いをより具体的にもつことができ、次の活動につなげることができた。

記念日作りの活動を通して、児童が互いに認め合い協力してよりよい生活を作ろうとする意欲が見られ、学級生活が向上してきた。

### 2 今後の課題

取組がうまくいかないときの児童の気持ちを大切に、児童同士が互いをより認め合えるように配慮しながら、学級の問題解決に協力できるようにしたい。

自分の思いを素直に話せる雰囲気作りを大切にしながら、活動の様子や児童の思いを細かく見取り、記念日作りの活動を通して得られる喜びをさらに深めていくための工夫をしたい。

## 参考文献

- ・宮川 八岐 編著『小学校特別活動 基礎・基本と学習指導の実際』東洋館出版(2002)